

2019年度 第17期

事業報告書

(事業年度:平成31年4月1日～令和2年3月31日)

2020年6月

特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ

<2019 年度の活動>

2018 年度にオープンしたたけし文化センター連尺町が本格的に稼働した1年だった。昨年度は新社屋建設、2か所の移転、退去などが重なり、文化事業を行う余裕がなかったが今年度は、文化庁、静岡県文化プログラム、福祉医療機構から委託、助成を受けて多くの事業を行うことができた。

特に文化庁の「障害者による文化芸術活動支援事業」では、地域活動家で作家の小松理度氏に毎月1回1泊以上の滞在を通して「表現未満、」を思考する紀行文の公開を依頼し、ホームページにてアップされた。その中から12本をまとめた「ただ、そこにいる人たち」は、編集者に影山祐樹氏を迎え1冊の読み物としてまとめ上げたものである。この本では、レッツの恒久的な課題である、さまざまな人たちにレッツの活動や「表現未満、」を伝えるという目的を、小松さんの読みやすい文章と、洞察力によって、今までレッツの応援者や関係者ではない人々にも伝えることができた。

11月から12月にかけて50日間おこなった「HYOGEN-MIMANTH」は文化祭として2年目となる。トークやワークショップ、シンポジウムも織り込みながら表現未満、の思考を深める機会となった。

活動場所が新しくなったこと、連尺町は浜松市の中心でアクセスがいいことによって生活介護利用者が増加した。

一方、入野町の「のヴぁ公民館」やアルス・ノヴァ入野は郊外にあること、庭があることによって連尺町と差別化されている。こちらもまた違った趣があり人気である。しかし入野町は、松下ビルでの活動ができなくなったことにより、早急に改修をした経緯がありそもそも老朽化と狭小化が著しい。できる限りの整備は行っているが(エアコンの設置、トイレの改修など)根本的な解決になっていない。利用者の増加に伴い火急に対応を考えていかなければいけない状況である。

たけし文化センター連尺町3階に設置されたシェアハウス、ゲストハウスも本格的に始動した。医療福祉機構の助成を受けて始まった「たけしと生活研究会」は、重度知的障害者の新しい暮らし方を思考する事業であるが、10月より重度知的障害者の利用者が6か月間宿泊した。また、レジデンス的にアーティストや学生が長期滞在した。その他にもタイムトラベル100時間ツアーのツアー客をはじめ、一般のゲストの宿泊も始まった。たけし文化センター連尺町が地域の文化創造発信拠点となるために、宿泊施設併設は大きなポテンシャルとなっている。

3階を利用している重度知的障害者は、重度訪問介護を利用して自立生活を行っている、重度訪問介護は知的障害者が利用した例がなく実質久保田さんが初となる。本事業が重度知的障害者の入所施設やグループホームではない自立の在り方の提案を行ったことは、画期的である。

しかし、これを支える重度訪問介護事業所はこの地域においてほとんど稼働していない。またその数も圧倒的に少ない。こうした状況下で、「たけしと生活研究会」の実験は、様々な課題を顕在化させた。(詳しくは2019年度「たけしと生活研究会」報告書、あるいはHPで全ページ閲覧できます)

重度知的障害者の新しい暮らし方の提案は、知的障害者の自立や親なき後の方法として新しい方向性を示す事業となる可能性がある。先日は、NHK EテレのハートネットTVにおいて「たけし自立生活始めました。～重い障害のある人の新しい暮らし～」で取り上げられた。全国にも話題となっている事業である。

アルス・ノヴァ設立以来、行ってきた放課後等デイサービスは昨今の浜松地域の事業所の増加とともにアルス・ノヴァでの利用者は減少傾向である。また利用者の特徴と建物の構図上の理由からほぼ一対一対応である。来年度、浜松特別支援学校が2校に分校する予定で、今後どうしていくかを考えていく必要がある。

(1) 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

2010年4月に開所した障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァは2019年度を終えて10年となる。自立訓練と放課後等デイサービスからスタートした福祉事業も、利用者がより安定して楽しみながら過ごせる方法を模索するなかで、生活介護や就労継続支援B型とサービス形態を変化させながら運営してきた。

2018年11月のたけし文化センター開設により、アルス・ノヴァは連尺町と入野町の2拠点、3事業所(生活介護・多機能・放課後等デイ)で運営している。利用者は、本人の特性や状況に合わせて各事業所を利用している。

浜松市中区連尺町 314-30 たけし文化センター内	浜松市西区入野町 9156-1,9156-4	
アルス・ノヴァ (大人のためのサービス) 生活介護定員 20名	のヴァ公民館内 アルス・ノヴァ入野 (大人のためのサービス) 生活介護定員 10名 就労継続支援B型 定員 10名	アルス・ノヴァ (子どものためのサービス) 放課後等デイサービス 定員 10名

■アルス・ノヴァ(連尺町) (生活介護定員 20名・日中一時定員 10名)

●利用状況

年間通して実利用者数は18名と、2019年度は増減がなかった。日々の利用者数は生活介護が平均12名程度。日中一時支援の利用は土曜日だけの利用が多く、毎週5名ほどの利用であった。

●対外活動

佐鳴台小学校、富塚中学校、その他複数の小学校と交流事業を行い、学生とアルス・ノヴァ利用者が直接関わりを持つことができた。6月には路上演劇祭の会場となり、利用者は普段と変わらぬ姿でパフォーマー、来訪者との関わりを持つ事ができた。8月には納涼祭(サマーフェスティバル)、1月には新年会を行い、利用者や親御さん地域住民や普段から関わりを持つ方達との交流を深めた。また、音楽イベントを積極的に行い、ドラマー梶原徹也さんを招いての爆音ワークショップや、利用者が制作した楽曲を披露する「玄関 LIVE」、11月の「第二回表現未満、文化祭」中には「スタ☆タン!!3」が行われた。また、LIVEハウスとしての機能も持ち、「くまこあら」等のイベントも開催された。

●地域とのかかわり

浜松市街地での生活にも慣れ、散歩や屋外活動など、入野町での過ごし以上に積極的に外出支援を行うことができた。重度の知的障害を持つ彼らが大声を出しながら街を闊歩する姿に、当初は行き交う人が驚いた様子で振り返ることも見られたが、年中練り歩くこと一年が経過し、彼らの姿が市街地にも日常化し「ああ、また彼らか」と静かに寛容され、地域社会に浸透しだした感触を肌身で感じてきた。

時には路上や店内で座り込み、その場からスタッフ共々動けなくなってしまうことも見られたが、暖かい眼差しや「何かお手伝いしましょうか?」という暖かい声掛けも受けるようになった。ある楽器店で籠城してしまった際には「この楽器をいつも弾いていらっしゃいますよ?」と店員さんから声掛けしてもらい、その場の緊張がほぐれることもあった。

スタッフと利用者だけのマンツーマンの関わりには限界があり、地域社会に共に生活する福祉でもなんでもない他者(第

三者)が支援の現場に流れ込むことで、思いもよらない良性的な展開が起きる事を目の当たりにすることとなった。

地域社会と関わることは同時に、簡単に閉鎖的な状況に落とし込まれやすい障害福祉の現場を「柔軟に開いていく」ことにおいて重要な意味をもつことを体感した。

●健康

新型コロナウイルス等への感染予防として、検温・換気・消毒を定時で行い感染予防に努めた。また以前よりも増して服薬チェックをアラームやチェック表で管理し、体調管理を徹底した。

●支援

5月に玄関等の施錠を電子ロック式(テンキー式)の鍵に工事したことで、複数人の利用者が入野町から連尺町に過ぎるに戻すことができた。安全を確保できたことで、飛び出し等の危険行為を未然に防ぐことができた。同時に、障害福祉施設に気軽に様々な方達が来訪できるよう様々なイベントを設け、分け隔てない姿勢で来訪者を迎え入れるなど、利用者スタッフだけではなく様々な方達が共に同じ空間で過ごせるよう柔軟な対応ができるよう心掛けた。

ご家庭や親御さんともモニタリング等の定期的なやりとりだけでなく、納涼祭や新年会等、施設関係者だけでなく様々な方達がアルス・ノヴァの場を活用し、楽しんでいることを共有できるようにした。

また、10月の台風19号や年末の新型コロナウイルス対応では親御さんとの連絡を密に行い、自宅での過ごしに不安がある場合、柔軟に受け入れができるよう対応した。有事の際においても、ご家庭だけで利用者さんを抱えないよう積極的に声掛けを行い、家庭状況を共有し、気軽に施設利用ができるよう対応した。





■アルス・ノヴァ入野(入野町)(生活介護定員 10 名・就労継続支援 B 型定員 10 名)

2019 年度は実地指導があり、契約書や防災の視点の見直しをした。今後は一層、施設内の整理整頓を積極的に行う。

【生活介護】

●利用状況

放課後等デイサービスを利用していた生徒が、大人のサービスへ利用を切り替えたため、2名増加し、2019 年度末現在の実利用者数は 10 名。毎日平均 5～6 名が通所している。

●対外活動

のヴァ公民館時代から続いている、「アートインコミュニティ」や「銅版画講座」、「アロマ講座」を引き続き開催している。利用者との散歩やドライブなど、屋外での活動は前年度の2倍以上(体感的に)増加し、今後の屋外活動の発展に期待を抱いている。

●地域との関わり

これまでのように入り口に鍵をかけず、外から人が入り易いようにしている。その為、近隣に住む方に、「以前から気になっていたが、久しぶりに前を通りかかったから。」と声をかけていただける機会がある。

散歩の習慣化により、近所の協働センターの馴染みの顔になったり、挨拶をする機会が増えた。また、近所のコミュニティスペース、「夢応援プラザ」との関係も細々と続いている。

●健康

積極的に散歩に出かけることがいい運動になっている。佐鳴湖を半周するような長い散歩や軽い山登りなど、スタッフの健康づくりにも繋がっている。新型コロナウイルス感染症の予防対策として、体温測定や時間を決めて換気や消毒を行うようにした。通所前や到着後の体温確認だけでなく、様子が通常と違う場合は再度体温を計ったり、様子を記録するなど、体調の変化にも注意を払い、病気の予防を心がけている。

●支援

利用者やスタッフが増え、放課後等デイサービスを利用する児童も遊びに来るので、1階フロアは満杯である。(2階はパニックルームや静かに過ごしたい方の居場所になっている。)その為、利用者同士の干渉でパニックが起こったり、フロア全体が不穏になることが増えてきた。屋外活動や連尺との連携でフロアにいる人数を調整し、居心地の良い環境を保っている。フロアの密度の高さもあつてか、屋外活動が盛んになった。普段あまり外出されない方が多いので、良い刺

激になっているようだ。天候の良い日は外での食事も良い息抜きになっている。屋内活動でも今まで通り物作りに励む人、お菓子やスーパーバルーンを何度も並べ直して眺めて楽しむ人、パソコンでゲーム中継を楽しむ人、それぞれのカラーがはっきりしてきた。



【就労継続支援 B 型】

●利用状況

2019 年度は居場所利用者が1名増加し、実利用者数は7 名となった。日々の利用者数は平均 4 名程度である。

●日々の活動

アルス・ノヴァの就労継続支援 B 型は、利用する方それぞれの要望や状況に応えるために、〈ワーク〉〈バラエティ〉〈エクササイズ〉という 3 つの働き方を用意している。2019 年度末現在、8 名の方がこのサービスを利用して活動している。

〈バラエティ〉では、村木大峰さんが「恋愛妄想詩人ムラキング」として活動している。2019 年度は「タイムトラベル 100 時間ツアー」参加者に向けた詩の WS を不定期に開催。静岡大学や静岡文化芸術大学の授業に講師として登壇して自身のライフストーリーを受講者に語ったり、ポエトリーリーディングのパフォーマンスなどを実施した。また新しい詩集の制作を進めている。

〈エクササイズ〉に所属する 5 人の方々は、それぞれに日課とした任された掃除などの軽作業を通じて、仕事に必要な習慣を身につけている。また、それぞれの興味関心に応じて映画制作や音楽などの活動を行いながら、「できること」や「やりたいこと」を深め広げている。



観光事業「タイムトラベル 100 時間ツアー」で観光客を出迎え施設案内の仕事を行う方もいる。1 名の方は継続して「のヴぁてれび」の研修を実施しており、「週刊あるす・のヴぁ」用の動画制作を行い実践的に学んでいる。

「のヴぁてれび」の映像制作を主な仕事とする〈ワーク〉では、現在 2 名の方が働いている。それぞれの方の体調に合わせて、業務内容や勤務時間を調整している。アルス・ノヴァの劇的な日常を発信する

番組「週刊あるす・のヴぁ」を毎週 YouTube にて公開している。また今年度は、レッツの主催事業(たけしと生活研究会、トークシリーズ・手探りの「表現未満、」、「表現未満、」文化祭、雑多な音楽祭「スタ☆タン!!」)の映像配信業務を受託して実施した。複数カメラを切り替えながら行う映像配信はとてもクオリティが高いと、遠方の参加者からも大変好評を得た。

なお、今年のヴぁてれびは開設から 5 年目を迎えた。継続的に発信してきた「週刊あるす・のヴぁ」は、2019 年度末現在の時点で 204 本が YouTube 上で公開されている。1 年間の YouTube チャンネルの延べ視聴回数は約 1 万 5 千回、新たなチャンネル登録者は 54 であった。



●その他

国は工賃向上施策として様々な取り組みを行い、静岡県でも工賃アップに尽力している。その一方で、働き賃金を得ることに限らない、生きることについて、本人のペースでゆっくりと考えたり、体験を通して選んでいくことができる「居場所」

が必要だとアルス・ノヴァでは考えている。一人ひとりが生き方を見つけ選ぶための試行錯誤ができる「居場所」として、施設内に留まらない様々な出会いのチャンネルを用意していくことを大切にしており、CD制作や定期的なライブイベント「玄関ライブ」などを行った。



(2) 障害者総合支援法に基づく一般相談支援事業

今年度の事業なし

(3) 障害者総合支援法に基づく特定相談支援事業

今年度の事業なし

(4) 児童福祉法に基づく障害児通所支援事業

■アルス・ノヴァ (放課後等デイサービス 定員 10 名)

●事業運営の状況

以前からの放デイ施設の急増やニーズの移り変わりによる利用人数の減少があったが、加えて 2021 年度の春に新しい特別支援学校「県立浜松みをつくし特別支援学校」が浜松市気賀地区に開校するため、メンバーの一部が転校になる予定である事など、今後も事業の継続に必要な利用者数の確保に課題がある。そうした中で放課後等デイサービス事業の今後について、採算性、個別性を確保すること、レッツ全体の中の位置づけ等の要素を他のサービスの提供も含め議論を進めている。

●利用状況

放課後等デイサービスを利用していた生徒が4名卒業し、新たに2名の利用があったため、2019 年度の実利用者数は 17 名で、毎日平均 6 名程度が通所している。

●活動

2018 年度の報告では、「移転後建物が狭くなった分、園庭を活用しています！」...とお伝えしたが、その後も皆どんどん児童のフロアから外へ出ていくようになっていく。年齢構成の中心が中高生になったこともあり、隣接するのヴァあ公民館に行き Youtube やゲーム、画像のプリント等を楽しむメンバーが増え、パソコンはいつも順番待ち状態である。

また、園庭でも Youtube 動画やゲームの中での行動を真似してみたり、最新の情報に影響された遊び方が見られている。

のヴァあ公民館向いの神社では木登りやかくれんぼ、また嫌なことがあると神社へ行ったりリセットしてくるメンバーもいて、神社まではアルスノヴァの一部のように感じている。

一方で個別の活動を伸ばしていくと建物の構造も相まってマンツーマンでの対応が必要になり、スタッフが何人いても足りないという悩みも起きている。



(5) 児童福祉法に基づく障害児相談支援事業

今年度の事業なし

(6) 文化センター事業

① 表現未満、プロジェクト <助成元: 文化庁 / 静岡県文化プログラム推進委員会 / SOMPO ジャパン>

表現未満、ス(スタ☆タン!!3、表現未満、文化祭、トークシリーズ、音楽ライブ、ワークショップ、シンポジウム他)

記録集「ただ、そこにいる人たち」の作成・企画

観光(タイムトラベル 100 時間ツアー / かしだしたけし)

しえんかいぎ

小学校向けワークショップ

2019年度の「表現未満、プロジェクト」は、「表現未満、ス(HYO-GEN MIMONTH)～表現未満、を体感する50日間～」を中心に、文化祭やトークシリーズ「手さぐりの『表現未満』」の開催、そして、「表現未満、」WEBサイトの作成とサイト内での『小松理虔さん「表現未満、」の旅』の毎月連載を実施し、様々な切り口からの活動を実施した。

「表現未満、ス」は、アルス・ノヴァを50日間ひらき、期間内に施設の日常・生活から生まれている事がらを様々なイベント形式で行った。文化祭は、前年、アルス・ノヴァの利用者やスタッフの「表現未満、」を集めて数多くのイベントを開催したが、2019度はみんなが参加・交流できる場(口実としてのイベント)をつくり開催することで利用者や参加者がそれぞれの「表現未満、」を發揮する時間・空間を実験的につくり出すことができた。

小松理虔さんの連載は、小松さんがアルス・ノヴァに毎月滞在し、利用者やスタッフとの関わりや体験を通して感じたことから「表現未満、」や障害、生活文化についての考察を書き綴ったものである。WEBサイトでの連載は、最終的に報告書にまとめ、全国各地に配布した。「共事者」を唱え、復興活動をしながらも障害のある方とこれまであまり接点がなかった小松さんの視点は、同じように障害のことにあまり触れたことがない方々にも届き、反響があった。

今後、『小松理虔さん「表現未満、」の旅』は出版予定である。また、小松さんとの活動は2020年度も継続して行いWEBサイトでの連載も継続予定である。

●表現未満、ス

期間内、「たけし文化センター連尺町」を会場に、障害福祉施設アルス・ノヴァの日常を公開しながら、そこから生まれているさまざまな事がらを、ワークショップ・展示・ライブ・トーク・シンポジウムといった形で50日の期間内に行った。これは、重度知的障害者の日常を全面的に開き、公開することをアートプロジェクトととらえ、障害福祉施設の営みのなかに潜在する「表現未満、」を当事者・来場者・観客が探り当てていく。これはアートの新しい在り方として全国的にも多くの関心を集めている。

「表現未満、ス(HYO-GEN MIMONTH)～表現未満、を体感する50日間～」

期間:2019年11月3日(日)～12月21日(土)

会場:たけし文化センター連尺町

延べ参加人数:3,400名



●スタ☆タン!!3

今回で3回目を迎えるスタ☆タン!!は、表現未満、な音楽・パフォーマンスを全国公募し、本選を通過した16組が、11月3日にたけし文化センター連尺町に一堂に会し、6時間という長丁場のオーディションを敢行した。会場をあえて「たけし文化センター連尺町」で行った。前回に比べて会場が縮小したが、障害者施設でもある当ビルで行うことによって、より「表現未満、」の意味と、人の持つ表現の可能性と多様性を示す試みとして成果があった。



●トークシリーズ「手さぐりの『表現未満』」

記録、食、身体、編集、アート、障害といったそれぞれの専門分野から表現未満、を考察するためのトークを行なった。トークの内容はすべてWEB配信生中継を行ない、多くの方に視聴いただいた。

期間:「表現未満、ス」期間中に開催(11/15、11/22、11/27、11/30、12/5)

- ①「表現未満、」と生活／記憶 松本篤史(NPO法人remoメンバー)
- ②あるすのづあ食堂～食べることと色んなこだわり EAT&ART TARO(アーティスト)
- ③「表現未満、」と「からだ」 細馬宏通(早稲田大学文学学術院教授)
- ④「表現未満、」を編む アサダワタル(文化活動家)
- ⑤「表現未満、」だらけな世の中～いたずらとくだらなさど信仰～ 深澤孝史(アーティスト)、新澤克憲(就労継続支援B型事業所ハーモニー施設長)、田中純(ハーモニーメンバー)、益山弘太郎(ハーモニーメンバー)

※参加人数:①参加14名／視聴40名 ②参加11名／視聴78名 ③参加3名／視聴123名 ④参加14名／視聴119名 ⑤参加29名／視聴119名



●音楽ライブ

表現未満ス期間中、3階の音楽ライブを行った。

①「クラブアルス」12月7日(土)18:00-21:00 @たけし文化センター連尺町1階

ゲスト:岸野雄一 参加者:50名

②「不思議の国とアルス」12月20日(金)13:00-15:00 @たけし文化センター連尺町2階 音楽スタジオ ゲスト:梶原

徹也、レッツメンバー 参加者:25名

③「玄関ライブ」12月21日(土)13:00-15:00 @たけし文化センター連尺町玄関口

ゲスト:吉田朝麻、レッツメンバー 参加者:30名

●シンポジウム

表現未満、ス期間中、「表現未満、」について、アーティスト、地域活動家、障害福祉関係者、キュレーターが参加し、「表現未満、」の今後について、今後の議論を行なった。作品だけではない文化・芸術の在り方や、アートの可能性についての議論が展開された。また今後の提言も行った。当日はネット配信を行なうことで、会場に来れない人たちでも議論に参加できるように配慮した。

「生きること、それも表現～「表現未満、」はどこに行く～」

日時:2019年12月8日(日)13:00～19:00

場所:たけし文化センター連尺町

参加人数:250名

シンポジスト:6名

藤弘志(美術家)、岡部兼芳(はじまりの美術館館長)、津口在吾(鞆の津ミュージアム、学芸員)、木ノ戸昌幸(swing 施設長)、小松理度(地域活動家)、久保田翠(レッツ代表)

●他イベント

表現未満ス期間中、上記イベントのほかにも、表現未満、を体感できるさまざまなイベントを行った。

- ・映画上映会+監督トーク(1回)
- ・哲学カフェ(計5回):かたりのヴぁ(2回)、ミドのヴぁ(2回)、出張かたりのヴぁ(1回)
- ・おためしタイムトラベル(計3回)
- ・ワークショップ(計20回)
- ・ネット配信生放送(計6回・byのヴぁてれば):手さぐりの「表現未満、」(5回)、シンポジウム(1回)、

●支援の記録と展示、シンポジウム～『ただ、そこにいる人たち』の作成

「新復興論」作者で第18回大佛次郎論壇賞受賞の小松理度氏が、毎月1回、たけし文化センター連尺町に宿泊し、障害福祉施設アルス・ノヴァの日常を目撃しながら「表現未満、」について考察し、滞在記を執筆。新たに開設したWEBマガジンに毎月1回以上記事を掲載、計18本を公開した。そのうち16本をまとめた「小松理度さん「表現未満、」の旅」を冊子としてまとめた。編集者、デザイナーも含め今まで関わりがなかった人たちの目線から「表現未満、」を多角的に評し、発信する方策として新たな試みとなった。

表現未満、WEBマガジンの開設

- ①小松理度さん「表現未満、」の旅(毎月1回、20本以上)、
- ②となりの表現未満、
- ③目撃情報 by スタッフ(30本)、
- ④イベント情報、など

期間:5月～7月 打ち合わせ・依頼、7月～3月 取材・体験・

宿泊・執筆・公開

「ただ、そこにいる人たち ～小松理虔さん「表現未満」の旅～」

冊子制作

仕様:B5判、219ページ、4,000部

編集:影山裕樹(合同会社 千十一編集室)

デザイン:太田知也(NPO法人 bootopia)



●学校との関わり

小学校向けプログラム「GOGO!たけぶん探検隊！」

前年度より関わりを深めてきた佐鳴台小学校の協力のもと、たけし文化センターへの校外学習が初めて実現した。レッツでは、かねてからの願いとして、小学4年生程度の年齢までにアルス・ノヴァのメンバーのような人たちと出会って、さまざまな人たちの中に自分もいるという体験をしてもらいたい、できれば浜松市内すべての小学生がたけし文化センターを訪問してほしいという思いがあった。佐鳴台小学校にその願いを伝えたところ、学校としても多文化共生の枠組みとして訪問したいというお話をいただき、初めての4年生全員(90名)の滞在が実現した。1クラス(30名)各1時間の滞在であったが、レッツにも学校側にも多くの気づきがあった。その後、この試みが「GOGO!たけぶん探検隊！」というプログラムとして他の学校へ広がるかたちで、双葉小、城北小の4年生も、たけし文化センターでの滞在を行った。こうした取り組みを市長へのプレゼンした結果、来年度以降は、教育委員会を通して市内全校に周知していくこととなり、準備をすすめている。

期間:6月28日、7月12日、9月30日、10月10日、11月28日

場所:たけし文化センター連尺町

対象:浜松市立佐鳴台小学校6年生20名(6月)、4年生90名(7月)、浜松市立双葉小学校24名(9月)、浜松市立城北小学校70名(10月事前学習、11月来訪)



学校への訪問やPTAとの関わり

5月に富塚中学校のSDGsに関するグループワークに代表の久保田が招かれ、アルス・ノヴァに通所するメンバーとともに中学校を訪れた。その際の交流が縁となり、夏休みには同中学校の2年生が4名、実際にたけし文化センターを訪れ自由課題の取材を行った。

かねてから交流のある佐鳴台小学校では、6月に6年生の校外学習で一部のグループ学習としてたけし文化センターを訪れたほか、お昼保井の「みにみにあるす・のヴァ」として1～2か月に1回の訪問を行った。回数を重ねるとともにお互い顔見知りが増えてきている。この活動は2020年度も続けていく予定となっている。

その他、中部学園 PTA の方からの依頼により、夏休みや冬休みの子どもの居場所として、たけし文化センターを利用できる旨のチラシが PTA の広報に掲載された。

●観光

たけし文化センター連尺町やのヴァ公民館で重度知的障害者や精神障害者との日常を共に過ごす1泊2日のツアー、タイムトラベル100時間ツアーを毎月1回行った。スタッフがツアーコンダクターになり、街なかに出かけたり、のヴァ公民館で過ごしたりと、それぞれのおすすめの過ごし方を提案するツアーとなった。11月から12月の表現未満、文化祭期間中は「おためしタイムトラベルとして、宿泊費以外は無料のツアーを実施し、文化祭とともに楽しむツアー客が参加した。タイムトラベル100時間ツアーとしてたけし文化センター連尺町3階のゲストハウスに宿泊することで、「表現未満、」の意義を伝える機会となった。

開催日:4月27日～28日、5月28日、6月28日～29日、7月27日、8月23日～24日、9月27日～28日、10月25日、11月15日～16日、11月29日～30日、12月20日～21日、1月24日～25日、2月21日～22日(3月は新型コロナにより中止)、全12回、延べ33名参加

場所:たけし文化センター連尺町、のヴァ公民館



●しえんかいぎ

アルス・ノヴァでの支援の現場を通して「障害」や「生きること」の様々を掘り下げ、「福祉」の面白さを伝える「しえんかいぎ」は、今年で4年目になった。施設外の方に参加してもらい、クローズドの会議を3回、公開での会議を3回行った。それぞれの専門の立場からの知識や意見を聞くことができ、突破口が見えたような気がしている。また、やまなみ工場の山下さんの「支援について」の回はアルス・ノヴァの支援との共通点と違いが分かり、日頃の自分の支援を反省する良い機会となった。来年度はアルス・ノヴァ独自の支援計画書の書式の開発も見据えながら、利用者さん全ての支援会議を職員全員が参加して行い、新たな展開に繋げたい。

7月18日 コメンテーター:小松理虔さん(島県いわき市で活動するローカルアクティビスト)

テーマ:「ムラキング」本人も参加

9月18日 コメンテーター:影山祐樹さん(編集者)

テーマ:「表現とお金」

8月9日 外部参加者:中田一絵さん(広報コミュニケーションディレクター)

テーマ:「散歩」

11月19日 コメンテーター:関根幹司さん(studio COOCA 施設長)

テーマ:「自立について」

12月11日 コメンテーター:山下完和さん(やまなみ工房施設長)

テーマ:「支援について」

12月17日 コメンテーター:西川勝さん(臨床哲学者)

テーマ:「健康のさきに」

●静岡県文化プログラムによる評価事業

2016年より静岡県文化プログラムの一環として表現美馬、プロジェクトを行ってきたが、2019年度は静岡県としてこれまでの文化プログラムの評価が行われ、表現未滿、プロジェクトについてこれまでの成果や関わりのある方々へのヒアリングなどを深く掘り下げた論考が作成された。レッツとしても、評価を受けることにより表現未滿、プロジェクトの歩みを顧みる機会となった。

②シェアハウス・ゲストハウス事業<助成元:独立行政法人福祉医療機構>

●たけしと生活研究会

独立行政法人福祉医療機構の2019年度社会福祉振興助成採択事業として、重度知的障害者の新しい住まい方提案と支援者養成事業を行なった。事業名を「たけしと生活研究会」とし、主にアルス・ノヴァを利用する久保田壮さんの生活を模索しつつ、さまざまな人たちがともに生きる暮らし方を考えた。

【事例と制度の調査】

重度知的障害のある方の自立生活の先事例や、血縁者以外が集まって住んだり、家を他者に開くなどの新しい試みを調査した。また、既存の障害福祉サービス等の比較検討を行った。

意見交換:4回/トークイベント参加:3回/ヒアリング:2団体/視察:1ヶ所/福祉制度勉強会:2回

【シェアハウスでの生活実験】

たけし文化センター連尺町内にあるシェアハウス兼ゲストハウスに、24歳の重度知的障害のある久保田壮さんが住みながら、年齢や嗜好にあった住まい方と、その暮らしを支える方法を検討した。また、福祉サービスを利用しながらも、制度だけに捉われず、福祉職以外の人たちを巻き込んだ暮らし方を自由な発想でプランニングし、実践した。

- ・久保田壮さんのシェアハウスでの自立生活の支援
- ・外部の人(2名)のシェアハウス滞在の招聘
- ・アルス・ノヴァ利用者の保護者への説明会の開催
- ・アルス・ノヴァ利用者の自立生活体験の支援

【トークシリーズの開催】

重度知的障害のある方に限らず、広く人々の暮らしに関わる実践をしているゲストたちとともに、多様な視点から「住まい」「家族」「暮らし」などについて考えた。

#1 風雷社の中村さんに聞いてみる！重度知的障害のある人の自立生活(ケア付き一人暮らし)！？ー

「Transit Yard げんちゃんの記録」上映会&トーク in 浜松ー

日時:2019年7月22日(月)19:00~21:00

ゲスト:中村和利(NPO法人風雷社中理事長、WEBマガジンIKETAMA 主宰)

参加者数:34名

#2 中田一会さんに聞いてみる！「家を継ぎ接ぐ」で考えたこと

日時:2019年8月8日(木)18:30~20:30

ゲスト:中田一会

参加者数:36名 映像配信視聴:100回

#3 相澤久美さんに聞いてみる! 家族という境界を揺るがす住まいと生活

<第1部>

日時:2019年9月20日(金)18:30~20:30

ゲスト:相澤久美

参加者数:8名 映像配信視聴:83回

<第2部>

日時:2019年9月21日(土)13:30~15:30

ゲスト:相澤久美、ロビンス小依

参加者数:6名 映像配信視聴:29回



#4 アサダワタルさんに聞いてみる！生活と表現とシェア

日時:2019年10月2日(水)18:30~20:30

ゲスト:アサダワタル

参加者数:15名 映像配信視聴:168回

#5 テンギョウ・クラさんに聞いてみる！生活とか自立とか友達とか

日時:2019年11月5日(火)18:30~20:30

ゲスト:テンギョウ・クラ、タカハシ 'タカカーン' セイジ、佐藤航也

参加者数:13名 映像配信視聴:407回

【アドバイザーボードの実施】

福祉制度、まちづくり、地域包括支援、臨床哲学など、様々な分野の識者・実践家を委員として招き、本事業の相談や分析、課題の抽出を行う会議を開催した。ここでの議論を政策提言やまちづくり計画につなげていくことを企図している。

第一回 日時:2019年10月22日(火)17:00~20:00

第二回 日時:2020年3月14日(土)11:00~14:00

委員:堀田聡子(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授)、保井美樹(法政大学現代福祉学部人間社会研究科教授)、西川勝(公益社団法人認知症のひとと家族の会大阪府支部代表)、小出隆司(静岡県手をつなぐ育成会)、片桐公彦(厚生労働省障害福祉課障害福祉専門官・知的障害分野)、道躰正成(東海北陸厚生局)、田中孝太郎(浜松市健康福祉部障害保健福祉課)、飯塚康敬(浜松市中区社会福祉課)

オブザーバー:又村あおい(全国手をつなぐ育成会連合会政策センター委員、機関紙「手をつなぐ」編集委員、日本発達障害連盟JLニュース編集長、発達障害白書編集委員、内閣府障害差別解消法アドバイザー)

【報告書の作成】

事業の内容をまとめた報告書を作成し、各所に配布した。

編集:石幡愛

英訳:芝辻ペラン詩子、マイケル・スミス・ウェルチュ

デザイン:ウエダトモミ(BOB.des'), 安達彩夏(design hotori)

ページ数:76ページ/作成部数:3,000部

●ゲストハウス・シェアハウスの運営

たけし文化センター3階のシェアハウス兼ゲストハウスの運営を行なった。11月頃からはNHKが取材にはいり、現在に至るまで継続的な取材が行われている。2019年度の滞在者数は65名であった。

【ゲストハウス】

たけし文化センター連尺町3階に設けた、シェアハウス、ゲストハウスを本年度本格的に始動した。従来からレッツは県内外から来訪者が多く、2014年からゲストハウスを入野町に設けていた経緯がある。そうした経験を生かして、旅館業も取得し、ゲストハウス(通称:ニューアート浜松)を稼働した。2019年度ゲストハウス滞在者数:65名である。タイムトラベル100時間ツアーのツアー客、表現未満、プロジェクト関係者、「たけしと生活研究会」関係者など、プロジェクト関係の宿泊がメインであった。



【シェアハウス】

10月より2020年3月まで久保田壮さんがヘルパーとともに6か月間居住した。その他に大学院生が月の半分を、アー

ティストが延べ40日間シェアはメイトとして住まうなど、重度知的障害者と、健常者との同居生活の実験が行われた。また、アルス・ノヴァの利用者がレスパイト、あるいは自立生活の練習のためにゲストハウスを利用するなど、さまざまな使い方が提案された。



③たけし文化センター・のヴァ公民館事業

2019年度、のヴァ公民館は主に福祉事業であるアルス・ノヴァ入野の活動場所になっており、2018年度のようなフリーマーケットやイベントはほとんど行っていない。ただ、参加者が定着しているアート・イン・コミュニティ3(講師:ホシノマサル)、銅版画講座(講師:山下淳子)については継続してのヴァ公民館で毎月開催している。レッツアート(講師:高木淑子)については、長く続けてきた講座であったが、2019年7月を最後に休止することとなった。

いっぽう、たけし文化センター連尺町は、かたりのヴァやミドのヴァなどの定期的な主催イベントのほかに、一般からの持ち込み企画で利用されている。

●主催イベント

【かたりのヴァ・ミドのヴァ】

スタッフが持ち回りでテーマを決めファシリテーターを務める「かたりのヴァ」と、代表の久保田を囲んで話す「ミドのヴァ」を行った。

<かたりのヴァ>

2019年

4月13日「計画となりゆき」 / 5月1日「自由を感じる時」 / 6月8日「差別と区別」
7月13日「テーマは当日決めます」 / 8月10日「野生とは」 / 9月14日「レッツと社会(3)」
11月9日「臭いものに蓋をしないとどうなるか」 / 12月14日「公共について」

2020年

1月11日「書くことの意味」 / 2月8日「ケアするひとのケアって」

<ミドのヴァ>

4月9日「わかりあうとは？」 / 5月14日「家族って何？」 / 6月11日「生活×政治」
7月9日「普通ってなに」 / 8月6日「自立すること」 / 9月10日「やさしさについて」
10月8日「つよさとよわさ」 / 11月12日「ともに生きる」 / 12月10日「尊厳について」
1月14日「支えること支えられること」 / 2月11日「価値がある？ない？」 / 3月10日「ともに生きる」

【不思議の国とアルス】

前年度同様、ドラマの梶原徹也さんをお招きして、爆音イベント「不思議の国とアルス」を隔月で開催した。

【サマフェス】

毎年開催しているサマーフェスティバル。2019年も8月3日に開催。ライブや持ち寄り料理、カラオケなどを開催し、利用者をはじめ多くの参加者でにぎわった。



●持ち込みイベント

通年：積ん読本どくしょ会／福三七の小説を音読する会／Fumiko さん

のアロマ講座(のづあ公民館)／Twin Peaks / R R(あるある) Night／

4月：高円寺・円盤～レコード寄席～／山森達也のダイバーシティイズデッド

6月：路上演劇祭／くまこあら vol3 にゃにゃんがプー・オコロン・さとうもか LIVE

7月：日曜午後に踊れる曲とおいしいおやつを持ちよるパーティー

8月：「稽古する会(仮称)」番外編 | 映画をみる

10月：文化人類学茶話会@たけ文 Vol.0「文化人類学生・佐藤航也がスウェーデンで撮った写真を見る」／オコロン

ン× minakumari (ミナクマリ) × 清水 ひろたか LIVE

11月：テッテイテキに Tette@レッツ



●広報物の制作

「たけぶん便り」を制作し周辺地域に配布している。回覧板での配布は商業地域であるためほとんど効果がなく、利用者とともに商店を回りながら、協力店舗に配布している。

■2019 年度メディア掲載

2019 年

- 6 月 2 日「路上演劇祭、多彩に」静岡新聞.
- 6 月 23 日「自分らしい暮らし女性 2 人経験語る」中日新聞
- 6 月 29 日「姿勢功労者 6 人発表(山口理事)中日新聞
- 7 月 12 日 佐鳴台小4年生 たけし文化センター訪問 NHK
- 7 月 13 日「障害者施設で交流、佐鳴台小 94 人、楽器演奏など」中日新聞.
- 7 月 13 日「知的障害者と交流多様な価値観学ぶ佐鳴台小児童」
- 8 月 1 日 「自分の目で感じて」コラム清流 静岡新聞
- 8 月 14 日「障害者の自立向け課題や展望を提言 中区でトークイベント」中日新聞
- 8 月 15 日「浜松最後の秘境で。」『のんびる』2019 年 9 月号
- 8 月 16 日「魅力ある個性アート発信」中日新聞
- 8 月 18 日「11 月多彩な表現の祭典 出演者と審査員募集」静岡新聞
- 8 月 22 日「障害のある仲間へ応援歌 中区の橋さん CD 発売」中日新聞
- 8 月 23 日「障害者支援の CD 販売中止 歌詞に盗作の疑い」 中日新聞
- 10 月 15 日「息子に生活の拠点を、母親たちと意気投合」人間発見 1・日本経済新聞(夕)
- 10 月 16 日「アートで創造性喚起、福祉との板挟みに」人間発見 2・日本経済新聞(夕)
- 10 月 17 日「ずぶぬれや音立て…問題行動すべて肯定」人間発見 3・日本経済新聞(夕)
- 10 月 18 日「交流のため街中へ将来の自立の糸口に」人間発見 4・日本経済新聞
- 10 月 24 日「個性豊かな音楽イベント 来月 3 日 中区」静岡新聞
- 11 月 4 日「障害超え自由に表現(音楽イベント)静岡新聞
- 11 月 5 日「障害もアートだ!!」中日新聞
- 12 月 5 日 観光ツアー&小学校 静岡第一テレビ everyしずおか
- 12 月 7 日「誰でもできるよ」表現未満、』体感 障害者支援 NPO が文化祭」静岡新聞
- 12 月 8 日「『表現未満、』を楽しむ、妄想かるたに込め」中日新聞
- 12 月 12 日「重度知的障害者暮らし方模索 シェアハウスで介護利用」静岡新聞(夕)

2020 年

- 1 月 9 日「凶行理由丁寧に分析を 浜松で障害者支援 NPO 久保田さん願う」中日新聞
- 2 月 12 日 小松理度「地域の課題解決に向けて『共事』者に扉を開く時」コラム思考のプリズム 朝日新聞(夕)
- 2 月 23 日「障害福祉施設で過ごす『旅』タイムトラベル 100 時間ツアー」あさがお新聞店 あさがおだより 第 551 号
- 3 月 10 日「アートと地域のかかわり合い 01 たけし文化センター」DIVERSITY IN THE ARTS PAPER 07
- 3 月 17 日～23 日「『隠す』という排除の論理」山陰中央新聞、その他 17 社(共同通信 全国版)
- 3 月 30 日「観光客募る障害者施設 存在すること共に共感」高知新聞
- 3 月 31 日「『表現未満』支える『共事者』」信濃毎日新聞

障害者施設で交流

「行し文化センター」連尺町

佐野市小94人 楽器演奏など

「行し文化センター」連尺町。障害者施設で交流する様子。楽器演奏などを行う。

佐野市小94人、楽器演奏などを行う。障害者施設で交流する様子。

NHK NEWS WEB 静岡 NEWS WEB

知的障害のある人と小学生が交流

07月12日 19時59分

知的障害のある人がさまざまな人たちの交流を促されるよう、浜松市の市街地中心部に去年オープンした施設を、地元小学生が訪れ、障害のある人と一緒に絵を描くなどして交流を深めました。

浜松市中央区は去年11月にオープンした「たけし文化センター」は、知的障害のある人がさまざまな人たちの交流を促されるよう、音楽など文化的な活動ができるスタジオや遊べる機能を持った施設です。

12日は、地元の各小学校で福祉や人の多様性について学んでいる4年生の児童9人が施設の利用者と交流を深めようと訪れました。

児童たちは施設に通う重度の知的障害のある人と一緒に絵を描いたり、前日練習しているという歌を披露してもらったりして同じ時間を共有し、感じていることを熱心に聞いていました。

「施設を訪ねて一緒に過ごすうちに楽しくなりました。また来たいです」と話していました。施設では今後、一般の人が障害のある人と一緒に施設で遊ぶような催しを企画し、交流を深めていきたいとしています。

演奏やダンス 迫力パフォーマンス

障害もアートだ!!

「問題行動」と捉えられがちな障害者を「アート」として紹介し、障害者パフォーマンスイベント「フタカタ」が、12日、浜松市中区のびんがた文化センターで開かれた。

「フタカタ」は、障害者パフォーマンスイベント「フタカタ」が、12日、浜松市中区のびんがた文化センターで開かれた。

「フタカタ」は、障害者パフォーマンスイベント「フタカタ」が、12日、浜松市中区のびんがた文化センターで開かれた。

重度知的障害者暮らし方模索

「施設」「自宅」以外の選択肢は

重度知的障害者の暮らし方模索。施設や自宅以外の選択肢を探る。

重度知的障害者の暮らし方模索。施設や自宅以外の選択肢を探る。

シェアハウスで介護利用

浜松・社会実験

シェアハウスで介護利用。浜松市で社会実験が行われている。

シェアハウスで介護利用。浜松市で社会実験が行われている。

誰でもできるよ 「表現未満」体感

障害者支援NPOが文化祭

障害者支援NPOが文化祭。表現未満の体感を伝える。

障害者支援NPOが文化祭。表現未満の体感を伝える。

本音インタビュー

障害者の存在 発信続け18年

ありのまま 社会に問う

久保田 翠氏

障害者の存在を18年発信し続ける久保田翠氏の本音インタビュー。

知的障害あるがままに

福祉との板挟みに

アートで創造性喚起

知的障害あるがままに。福祉との板挟みに。アートで創造性喚起。

■久保田翠の出演・登壇

- ・2019年4月28日 水戸芸術館 座談会：「今、必要な場所」
- ・2019年5月2日 静岡県舞台芸術センターSPACシンポジウム：「クリエイティブ・アクセシビリティについて考える」
- ・2019年5月11日 くりみりゅ
- ・2019年6月3日 東京藝術大学 DOOR プロジェクト「「ダイバーシティと「表現未満、」～社会・福祉・家族～」
- ・2019年6月11日 京都市立芸術大学講義
- ・2019年6月22日 全国手をつなぐ育成会「障害者の表現に秘められたもの～社会・福祉・家族」
- ・2019年8月30日 アーツカウンシル宮崎「社会包摂と「表現未満、」～社会・福祉・家族～」
- ・2019年10月4日 京都市立芸術大学クロストーク「問題行動か表現未満か」
- ・2019年10月9日 静岡県文化プログラム SHIZUOKA STUDY
- ・2019年10月27日 ライフミュージアムネットワーク オープンディスカッション
- ・2019年12月2日から3回 静岡大学講義
- ・2019年12月26日 静岡大学 シンポジウム「知的障害者の「生きる力」をアートで伝え「多様で寛容な社会」をクリエイトする」
- ・2020年1月25日 土屋訪問介護事業所連続学習会
- ・2020年1月28日 静岡文化芸術大学(久保田翠・村木大峰)
- ・2020年2月24日 福島県障害者芸術作品展「表現未満から考える”きになる”ひょうげん”」

【スタッフ講演】

- ・2019年12月4日 映画「道草」上映会&シンポジウム in 浜松(高林洋臣・ササキユイチ)
- ・2020年1月11日 まなざしラジオ(佐藤啓太)
- ・2020年1月17日 リノベーションスクール 「GOGO!たけぶん探検隊！」(夏目はるな)



■チラシ・フライヤー・事業報告書

